



2008年 11月 30日発行

## ③ 視察報告

11月13日(木)愛知県犬山市にお邪魔しました。犬山市は全国統一学力テストを受けない」と全国で唯一あの統一学力テストを拒否した市です。犬山市教育長の瀬見井久先生をはじめとする犬山市の先生達は、犬山の教育にあの学力テストは馴染まない。そう判断したのです。競争ではなく学びあいを大事にしたい先生達にはそういう願いがあったのです。その瀬見井久先生達を書いた本を読んだのが今年の9月。全国学力テスト参加しません。」という本です。その本を読み終わった瞬間、「犬山市に行こう!」そう決めて、犬山市に連絡をとりました。

## ③ 副読本

犬山市は「全国統一学力テストを受けない」ことだけで有名なのではありません。犬山の先生達は自分達で毎年副教本を作っているのです。国語と算数と社会の副教本を僕は見る事ができましたが、これがまた素晴らしい。毎年、毎年試行錯誤しながら自分達の副教本を作り上げていく...先生たちにも子ども達にも力が付くわけです。写真は犬山の小学校の6年生の子ども達。写真撮影がうるさくなっている中で、市教委も校長先生も「写真? OKですよ!」と撮影を快諾していただきました。そして、子ども達もこの表情です。



## ③ 小人数学級

犬山市は独自のシステムで少人数学級を実現していることでも有名です。教務主任・公務主任・学年付教師という県費の教員に担任を持ってもらうことで、学級を増やし、30人の少人数学級を目指しているのです。(小学校で90%、中学校の70%がほぼ目標達成)そして穴のあいた分を市独自の臨時採用で補っているのです。それにかかる費用は年間およそ1億5000万。決して少ない金額ではありませんが、それだけの効果が出ていることも事実です。新座市の「英会話」とはそこが決定的に違います。



犬山の小学校は基本的に4人から5人一班での授業が多いのです。みんなそれぞれが役割を決めて学んでいきます。競争ではなく、学びあう心を育てようとしているのです。

## ③ 思い出します...

五中でも六中でも東大・京大や早稲田・慶応に行く子達がありました。その子達は実によく友達の勉強を見てくれていました。勉強が得意な子達が遅れている子達を教えることで、僕のクラスはいつも学年でトップのことが多かったのです。遅れている子をみんなで引っ張りあげていくと、クラス全体の成績が上がっていくのです。犬山市は市全体でそれをしています。そういう教育が今の新座市には必要なのです。